

激動の経営

吉報届く

仲代金属

④

中国での失敗を乗り越え、経営正常化に成功した社長の安中茂の元に吉報が届く。2019年度春の叙勲で旭日単光章を受章。一時は廃業を覚悟するほど

産学連携

苦しんだが、「今まで苦労したこと、努力したことが認められてうれしかった」。長年の功績が認められた瞬間だ。

18年からは東京電機大学らと産学連携で四角線コイルの開発を進める。99年に仲代金属が確立した四角線スリット加工技術で電線を製造すれば、従来の丸線と比較して約30%占積率が上がり電動コイルの性能を向上できる。電線化には絶縁皮

旭日単光章を受章



長年の功績により、社長の安中は19年度春の叙勲で旭日単光章を受章した（受章祝賀会）

膜処理が必要だが、しかし従来法では液だれで楕円形状となり四角線の特徴が損なわれる。安中は四角線の切断面に沿った絶縁技術の出現を待っていた。

時を経て現在、四角線へのマイクロンレベルの絶縁皮膜コーティング技術を産学連携で共同研究している。安中が待ち焦がれた技術融合が幕を開けた。共同

独自技術磨き 信頼築く

研究にあたって安中は「既にあるものでは意味がない、世界にまだないものを作ろう」と伝え、新しい技術を目指す。

安中は築き上げた。オシリワンで独自技術を磨き上げる安中の姿勢には、加工業としての誇りとノウハウが詰まっている。

現場で追究

今あるものはすぐ古くなる。金属材料も薄く軽い新素材の開発が進む。「素材を開発するところは多いが、切るところは少ない。スリット加工は重要な仕事だが国家資格や免許がない」と、公的資格がないことに不満を持つが、資格ではなく技術と実績が仲代金属への加工依頼を呼んでいる。誰も切ったことのない素材を切ってほしいと依頼される信頼を

「他社で失敗したため、当社に依頼してくる企業も多い。新しい案件に挑戦できることは幸せだ」と語るのは統括部門長の乗原大樹。若きリーダーに受け継がれた技術者としての心構えに安中は目を細める。乗原は同じ業界の他社から、安中の技術にほれ込んで仲代金属に入社した。中国進出の際は数年間現

創業者の頃から安中は磨き上げた技術を中心にした人の縁に支えられてきた。時にはうそと不誠実に悩まされたが、多くの人が安中に手を差し伸べた。安中の誠実さと確固たる技術が周囲に伝わったからだ。

技術と精神を継ぐ次期リーダーにも恵まれるが、「77歳の今でも現場で技術を追究するのが楽しい、まだまだ現役だ」と目を輝かせた。（敬称略）
（この項おわり。市野創士が担当しました）